

新課程の指導に関するアンケート 結果概要

河合塾では、2024年11月に、標記のWEBアンケートを実施しました。結果の概要を報告いたします。ご多忙の折、ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

河合塾

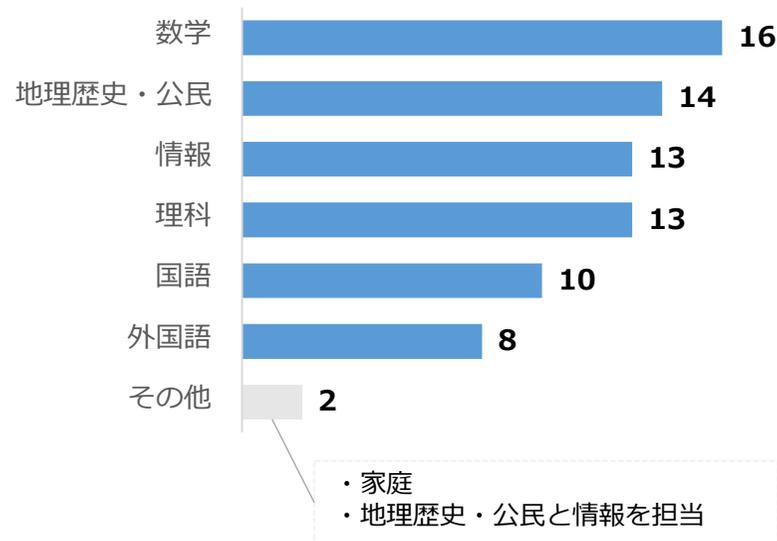
対象 高校・中等教育学校の先生方
回答数 76 件
実施方法 WEBアンケート
実施期間 2024年11月11日～11月24日

設問

1. 担当教科
2. 新課程（※）の指導への手ごたえについて、次の選択肢の中から選んでください。
3. 新課程の指導について、課題を感じているものをチェックしてください。
4. 上記を選んだ理由を具体的にご記入ください。
5. 新課程の指導経験を振り返り、2025年度以降に改善したいことについて、具体的にご記入ください。

※新課程：2018年3月に告示された学習指導要領に基づいた教育課程

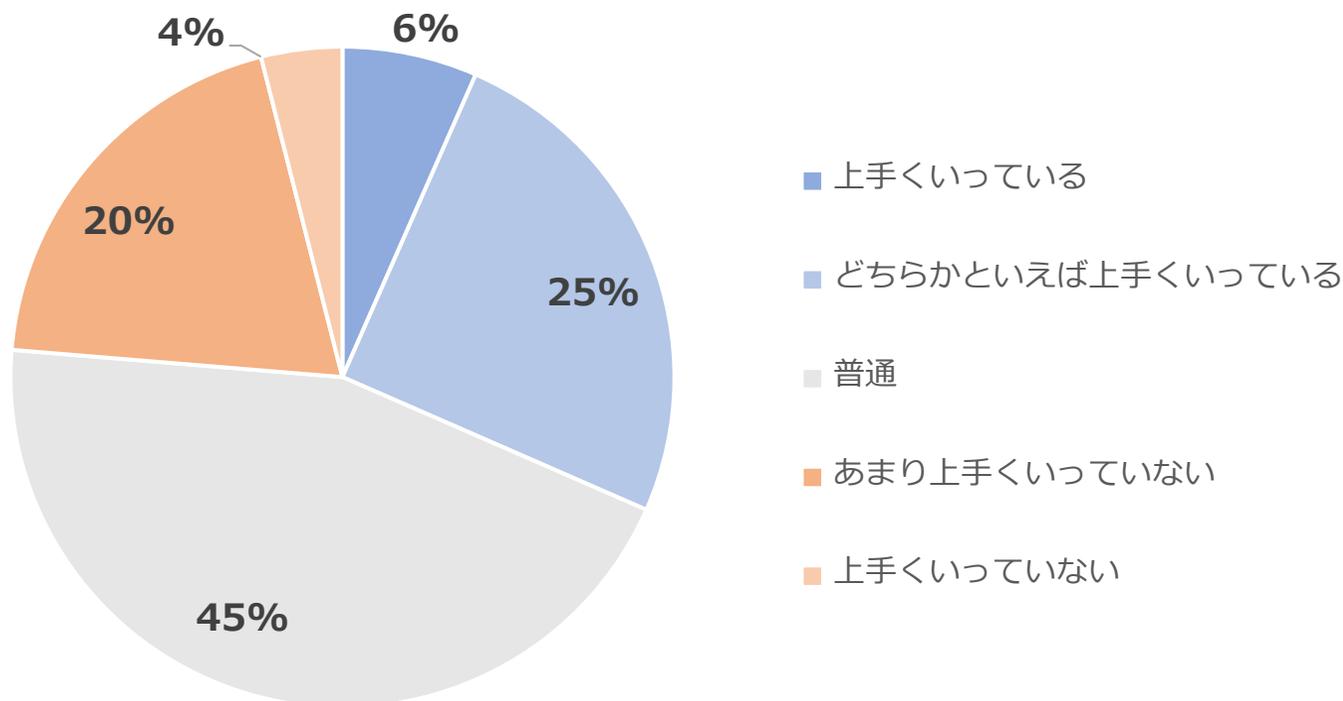
回答者の担当教科（n=76）



「普通」が約半数。

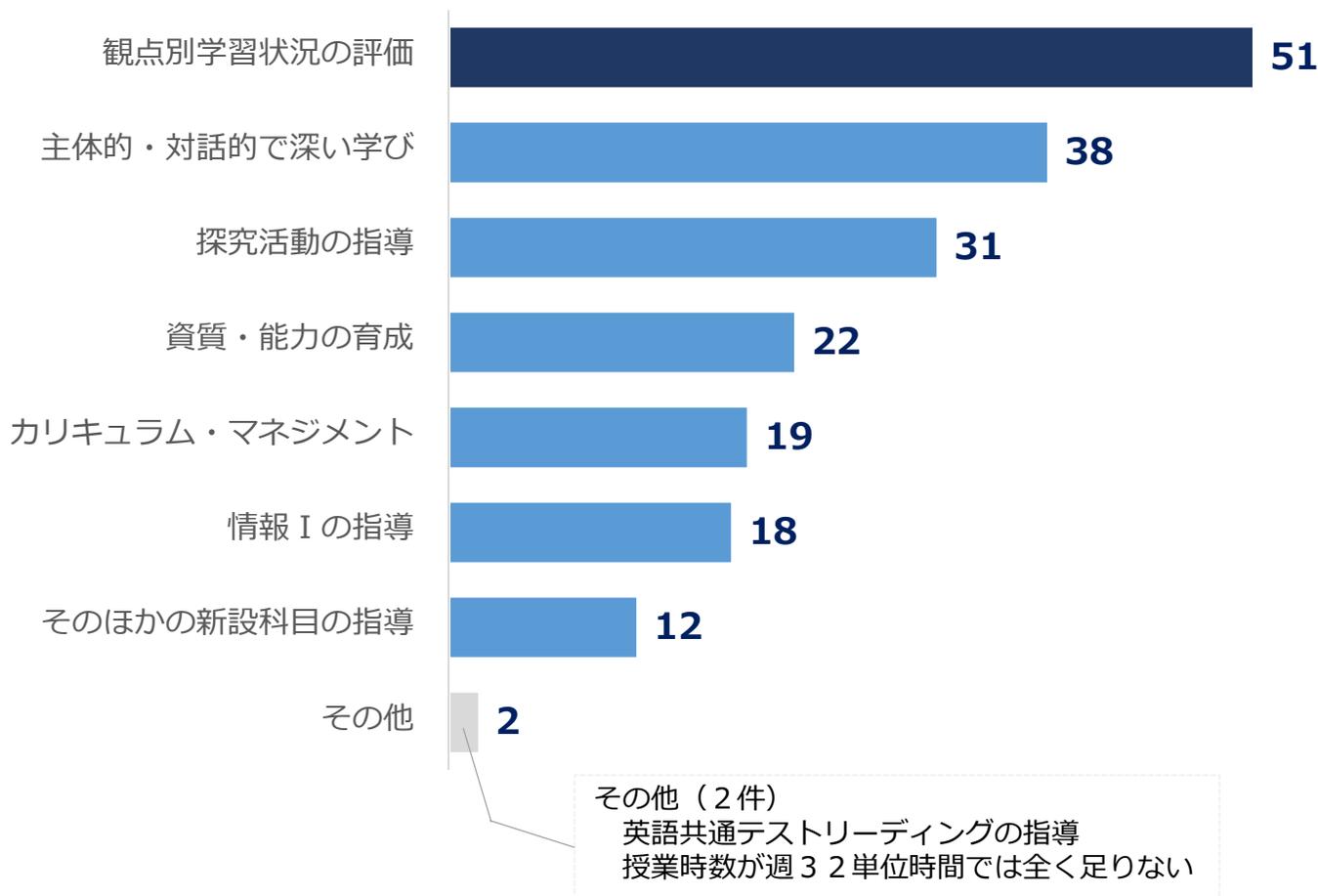
残りを、上手くいっている・上手くいっていないが均衡。

新課程の指導の手ごたえ (n=76)



約7割が「観点別学習状況の評価」で課題を感じている。

新課程の指導の課題（複数選択式,n=76）



観点別学習状況の評価に関するコメント

- (観点別評価は) 手間がかかる。
- 観点別評価は、教員の仕事をより煩雑なものにし、役に立っていない。
- 観点別評価により、教員の負担が増えたが生徒への還元は少ない。
- 観点別評価は本来、授業計画(中身)や生徒への学習の指針となるべきものであると思うが、どうしても3つの観点で、3段階で評価する方法論に陥りがちとなる。形式的なのでせっかく評価を出しても、次の学習に活かさないし、また、主体性の評価ははっきりいって無理がある。悩みながら評価をつけてもまったく役に立っていないと感じる。
- 総括的評価を多くしすぎないことがなかなか共有されない。そのため評価のための仕事が増えていく。
- 評価が難しい。自分の観点で評価してしまう。
- いまだに悩むことがあるから。もちろんそれが導入の狙いで、観点別評価のために新しい指導を考え始めたりしているのを自覚しているので、否定的意見ではない。
- 観点別評価で評価が甘くなり真の学力評価につながらない。
- 観点別評価と5段階評価が実態とずれることが多い。
- 評価方法が確立していない。
- 評価する内容が多岐にわたり、ミスが起きやすい。
- 日々の評価はすべてはできない。
- 考査問題の内容や提出物等の評価の基準を少しでも見誤ると、簡単に評定が偏ってしまう。また、年度ごとに生徒の能力が異なるため、通年で基準を設置することが困難である。
- 観点別の意欲はやはり評価できない。
- 資質能力等の、見えない力を評価する事が難しい。
- 観点別評価の「基準」の設定が難しい。「個に応じて」的な文言が出てくるが、最終的には「競争」にさらされるのだから、「個に応じた『絶対』」評価で競争に耐える能力を評価できるのか、不安である。
- 評価*主体的な学習態度の評価が難しい。受け持ちクラスがほぼ自然学級×8クラスでは、一人ひとりの生徒の取り組みを評価している余裕がなく、結局提出物の出来具合での採点となっている。
- 観点別評価については、まだ校内でも完全に確定していません。全体の様子を見ながら徐々に変更していく予定です。保護者にも十分に伝わっていないようで、時折、クレームとは言いませんが、成績のつけ方に電話等で問い合わせがあるようです。また、数学BCについても単位数や進度等について微調整が必要な気がしています。

資質・能力の育成、カリキュラムマネジメントに関するコメント

- 学校として育成を目指す資質・能力について、教科・科目の指導を通してどのような力を育成するのか、ということが教科間で理解されていない。観点別学習状況の評価は、三観点の階層的な関連（知識・理解があって、思考・判断・表現があり、その両者の育成を通じた主体的な学びの態度であること）を理解せずに運用している例が多数ある。対外的な証明となる評定への総括の根拠となることを鑑みても、正しい評価を行えているとは考えにくい。探究活動は、高校生の学び（教科・科目で学んだことを総合して学ぶ）にふさわしい課題設定となっていない場合が多いが、知識・技能の不足の問題があり、充実した内容にするのが難しい。
- 生徒のみならず教員の資質の低下を感じる。教員に求められることに反比例して能力やマネジメント能力が落ちている。探究的活動に対しては、非常に疑問を感じることが多い。知識の習得がおろそかになり、学力がままならないうちに研究テーマを見つけ、課題を見つけ、仮説を立ててまとめるなど、絵に描いた餅としか言えない。ほとんどの学校においては、教員がその準備を施し、生徒がそれに則って、レポートするようなものになり、教員の能力に加え、労力が甚だしい。一方で新カリリになり、学習内容が増大しているのに、そんな時間があるのかという矛盾を感じている。
- 教員間の理解に差が激しいことや、生徒指導の時間不足。
- 教科横断的な視点を持って普段から物事を考えてほしいというメッセージが共通テストの問題など様々な機会に提示されているように思いますが、なかなか教員間でカリキュラム・マネジメントを進めようという動きが起こらず、生徒の思考も各教科・科目で分断されてしまっているように感じます。
- 学校としてのカリキュラムマネジメントがうまくいっていないので、すべてがうまくいっていない。

主体的・対話的で深い学び、探究の指導に関するコメント

- 生徒が主体的に学ぶ授業がなかなか実現しない。
- 主体的な学びで、時間効率が下がり伝えられる内容が削減した。
- 観点について示すことで、本校のような工業高校ではテスト以外の評価をしやすいが、意欲的に学習に誘う効果は無いと感じている。学びたいという生徒と、学びを放棄した生徒がクラスの中に混在しており、対話的な授業になりづらい。発問を工夫するレベルに終わっていることを反省している。
- カリキュラムの消化のために知識伝授型の授業になりがちだから。
- 準備・実践を含めた時間数の不足。
- 実験での自己評価や提出物をルーブリックを使って評価していますが、本当にこんな方法で測れているのか不安です。
- 各科目で探究学習が入ってきたが、実際の授業の場でどのように実践すれば良いのか、教科担当ごとの温度差がある。
- 従来型（旧課程）のテスト形式を変えず、評価方法だけ手を入れた感が否めない。
- 上記すべてにおいて、何をどう数値化すればよいか暗中模索の状態です。ふりかえりを書かせたり、課題の提出を週に2回もさせたりで時間的余裕が全くありません。ましてや、探究活動のテーマなど全く見当が付きません。
- 本校では探究の授業計画を立案する校務分掌「総合学科推進部」があり、3学年通して毎週担当者（各クラス正副担任）の打合せ会を実施して取り組んでいます。
- 本校は各種行事の活動を生徒の運営で行ってきた経緯があり、その中で主体性や探求的な学びも行っている。それとは別に、何か具体的な成果を求めさせるような現在の「探究」のあり方には違和感を感じている。
- 教員の負担軽減と探究活動に深さを出すことのバランスがとりにくい（教員が手をかけるほど深い探究ができると思うが、教員の負担が増してしまう）
- （探究活動は）能力の高い生徒以外への負荷がかなりある。
- 観点別学習状況の評価、探究活動の指導に関しては、奥が深く、完璧な指導をしているとは言い切れないから。

情報Ⅰの指導に関するコメント

- 情報Ⅰは複数名の情報科の免許所有者で担当しているが、レベルアップした内容に対応できない教員がでている。
- 授業数の確保。本校では2年生で情報Ⅰを履修するため、行事等などで授業数を確保することが難しいことと、共通テスト対策に向けた指導も授業内でやるため時間が足りない。
- 様々な新しい視点を取り入れる以前に、単位数内で教科書が終わらず、多くを補講でカバーしていたり、「情報」の教員そのものが不足する状態で入試への取り入れが行われるなど、「思い付き」での対応のように感じられ、疑心暗鬼になっている。
- 情報Ⅰについては工業情報数理で代替しており、内容について「情報」の質に見合っていないと感じる。
- 情報の入試指導ができる教員がいない。
- 情報Ⅰでは生徒がこれからの社会を生き続けるために探究活動、対話的活動を実施している。しかし、情報Ⅰは2単位であり、十分な時間が確保できず、知識獲得は全て授業外の動画教材を利用している。一方で共通テストに情報Ⅰが実施され、知識も重要となっており、これから授業でどんな指導が必要なのか悩むとともに不安を感じている。
- 3年次の情報Ⅰ(特に共通テスト対応)に関することが具体的に対応できていない。
- 情報A、社会と情報と指導してきた。プログラミングやデジタル化は指導経験が浅く、演習のバリエーションも少ない。情報Ⅰの指導内容と単位数(2単位)が噛み合っておらず、指導内容の取舍選択は難しい課題だと感じる。
- 昨年度より、現3年生の情報Ⅰを担当しているが、教える内容を全ては教えきれず、模試等の問題を見ても、教科書を全て教えても対応できるのか?という不安しかないため。
- 情報Ⅰは大学入試センターなどが問題を公開しているが、個別の大学入試では公開していないところもある。どのような問題が出題されるかで対策の仕方も変わってくる。共通テストで得点を取ることを目的に授業を展開しているが、これで良いのかという点に自信が持てない。
- テスト対策が出来つつある。

そのほか科目指導に関するコメント

- 地歴・公民は、はじめて履修秩序が導入され現場の裁量の範囲が小さくなった。今までの指導要領では現場の裁量の幅を確保していたが、大きな方針転換となっている。
- 歴史総合や情報など未知の部分が多すぎるため。
- 歴史総合のボリュームが多い。従来の世界史Aと日本史Aの内容を母体に2単位で、1年間ですべてを扱うのは現実的に難しい。例えば現代史ならば政治経済といったように、関連する他科目との棲み分けが必要ではないか。
- 新設科目が増え時間表の作成に支障が生じた。特に社会の科目変更の影響が大きい。
- 数学においては、来年度以降数学Bと数学Cの4領域を試験範囲とする大学が増加することが見込まれる。しかし多くの高校における授業時間数では4領域を履修させるためには、いくつかの分野においては3年次に授業を行うか、授業時間を増やさないと対応できない。
- 現代の国語と言語文化に分かれ、古文漢文に割ける時間が圧倒的に減った。観点別評価については明確な基準を設けるのが難しく、評価観点が高くなってしまう。評定という考え方にブレが生じている。
- 新課程の意義が感じられないのが一番の理由。国語を担当していますが、「小説」を扱うのが非常に難しい。時間の余裕がないことや、教科書の問題。文科省が何を目指しているのか、この国の将来を担う人材をどう考えているのか、理解できない。

その他

- 教育課程が変わったことを意識していない教員がいて、新教育課程に沿った指導に変わらないと感じるから。
- ご質問の趣旨とちがってしまいますが、新学習指導要領への対応はほぼしていない状態です。
- 新課程になって、主体的な学び、探究活動、ICT活用などが叫ばれているが、身に付けさせなければならない基礎的基本的事項や内容は不変である。
- とにかく、学習・進学指導以外に多くの時間を割かれるようになってしまった。教育的には必要なことではあるが・・・
- 教師に課せられる仕事が多すぎる。スクラップできる仕事がなく、オーバーワークになりがちなのが最大の課題だと感じています。

- 観点別評価（特に主体的に取り組む態度）の更なる工夫
- 観点別学習状況の評価、探究活動の指導の実践例を研究して、本校の指導に活かしていきたい。
- 観点別評価の明確化。
- 評価について、同じ教科で話し合うこと。
- 評価の在り方。「競争」に対応できる評価に変えていきたい。
- 目標と評価の好循環。
- ■観点別学習状況の評価について、実際の場面を想定した評価の在り方（知識・技能がBであるのに、思考・判断・表現がAになる状況は、どのようなものか）について考える研修の機会を設定し、評価に係る力量形成を行う
 - 学校教育目標と教科・科目の指導や特別活動を通して育成すべき資質・能力との関係について、共通理解を図る。（学習指導要領に示された、教科・科目の目標に見合う授業づくり、特別活動の充実）
 - 探究活動の元となる教科・科目の知識・技能の確実な定着を図るために、生徒の学力分析を適切に行い、実態にあった指導方法を検討、実施する（動画や課題を配信するサービス、プラットフォームの活用を含む）
- 評価について。情報科担当が1人なので、なかなか改善する時間等がとれないが、改善していきたいとつねに思っている。
- 教科内外の共通理解。
- 学校全体でのカリキュラムマネジメントについて共有や検討する時間をとること。
- 3年間を見通した授業のペース配分。
- 校内研修。
- カリマネに基づいた学校としての体制・組織作り。教材内容や業務の一層の精選から「深い学び」に向かわせる時間の確保。
- 生徒の書く力、推敲する力も育てていきたい（添削に力を入れる、など）
- 本当に知識や経験が定着する学習方法とは？という視点をしっかり持つことだと思っている。
- 主体的な学習態度の評価方法。
- 生徒が主体的に学習活動をする取り組みをもっと増やす。
- グループ学習の機会などを増やし、生徒の主体的な授業参加を促したい。
- 教科書を自力で読み進めていける学力を身に付けさせたい。
- 知識ベースの授業から、発表形式や協働的な内容を取り入れた授業を実践するための研究会などに参加したい。
- 探究学習の充実、英語の低学年時での指導。
- 課題学習のアイデアの構築。
- 探究的な学びのありかた。
- 他校の取り組みを見て探求活動を改善したい。
- 学校内の多くの教育活動をA4版にまとめた資料を様々な場面で活用し、すべての教育活動の関連性を生徒・教員に示していきたい。
- 個人としては上手くいっているが、学校全体としてはさまざまな課題がある。このアンケート形式ではそれが表しきれない。
- 担当科目としては特に変更するつもりがなく、もっと実習を増やせたらと考えている。

- とにかく学力の低下を鑑み、小学校教育からの見直し。とにかくある程度の知識の習得を保証すること。教育格差の開きは、学習塾など他の教育機関などに通えるか否かの問題であり、学校教育では進学するための学習や学びでは目標を達成できないという証ではないか。学校教育に期待していないとも言える。また、理系離れは興味関心の方に重きを置かれるがそうではない。理系が就職的にも見て有望であることはわかっている。問題は、数学（算数）や理科が単純にわからないからだ。反復演習やドリル、計算力の低下が理系を避けていることであり、興味関心の問題ではないことを再度伝えたい。
- 教員の仕事を減らすこと。
- 必要以上にエネルギーを使わない方法を確立したいです。
- ICTの活用等 効率化を試みたい。
- 私立高校なので、新課程と学校の路線をどうすり合わせていくのか、その落としどころを探ること。
- 昨年まで旧課程の最後の学年を受け持っていたので、新たな気持ちで新課程に臨んでいる。しかし、工業高校は専門科目を実施する都合上、理科を1科目しか履修できず、国公立大学へ共通テストを受験して進学をする可能性がほとんど無いこと、本校の教育課程を組むところから考え直すことから始めたい。現行の教育課程は工業、農業には厳しいものになっている。
- 新課程入試がどのように行われるのかを注視して、教える内容を特に精選していきたい。現在ではあれもこれもと教える量が多く、いわゆる「こなす」作業をしているかのようです。
- とにかく真の学力評価が大切！！多方面から色々評価しても大学受験には役に立たない。
- 個別の大学入試などを研究して、日々の授業や探究活動のアドバイスなどに反映させたい。
- 大学入学共通テストの出題傾向を把握して、教科指導（受験指導）に反映したいと思います。
- 入試問題を見て判断したい。
- 私大の歴史総合や情報の科目設定の仕方をもう少し丁寧に確認したい。
- 情報Ⅰに対応できない先生のスキルアップ。履修秩序以外は、もともと先取りしているところが多いので、授業や教材のブラッシュアップ。
- 情報Ⅰの単位数増加は見込めないので、今後も知識獲得は動画教材に頼る。動画教材を利用した学習ロードマップの作成、ゲーミフィケーションを取り入れた生徒への働きかけを考えている。また、授業内の活動もブラッシュアップを図る。
- 情報科の選択科目開講を目指し、準備を進めたい。
- 情報Ⅰにおける教える内容と、生徒自身で進めてもらう内容を分けるような単元計画。
- 教科書とのリンク。
- 授業の進度をはやめたい。
- エンタルピー変化のところ演習問題が少なく（入試問題などが切り替わっていないため）、十分こなせなかったと思っているので、高3時での演習で補足したい。
- 改善するのは文科省だと思います。

進学情報誌「Guideline」のご案内

最新の入試動向をはじめ、教育界に関わる動きなどの情報を発信。

バックナンバーを電子書籍で公開しています。



▼閲覧はこちら

河合塾 ガイドライン

検索

<https://www.keinet.ne.jp/teacher/media/guideline/>

- ◆ 本資料の内容の無断転載・複製を禁止します。
- ◆ 本資料に関するお問い合わせやご意見は、こちらまでお寄せください。

学校法人河合塾 教育研究開発部

Email gl@kawaijuku.jp